

# 3. 画像下治療の現在と未来

村田 智 帝京大学ちば総合医療センター放射線科・IVRセンター  
瀬戸口 功 帝京大学ちば総合医療センター放射線部

interventional radiology (IVR) は、「カテーテル治療」や「血管内治療」とも呼ばれてきたが、日本IVR学会では「画像下治療」と訳される。本稿ではIVRとさせていただきます。IVRはX線透視やCT, 超音波(US)などの画像診断装置を用いて行う治療法であり、多くの手技が局所麻酔で行うことができることから、外科的な手術と比べ低侵襲であるのが特徴で、高齢の患者も安心して治療を受けることができる。また、迅速性が高く、かつリアルタイムに体内の状態を観察しながら、針やカテーテルを血管や胆管、消化管などの臓器に進め、病変部の治療を行う。基本的には穿刺する、詰める、広げるといった手技であり、治療効果がすぐに現れるのも特徴の一つである。

## 対象疾患

対象疾患は以下に示すように、血管造影手技に基づく血管系IVRと、それ以外の非血管系IVRに分けることができる。IVRの手技は多岐にわたるが、当センターでは、他科との協力の下、血管系、非血管系にかかわらず全身の治療を行っている。

### 1. 血管系IVR

#### 1) 腫瘍関連

- 肝がん、腎がん、骨盤内がん、肺がん、乳がんなどに対する化学塞栓術
- 肝がん、婦人科がん、乳がん、頭頸部がんなどへの動注療法
- 皮下埋め込み式リザーバー治療

- 抗がん剤灌流療法など

#### 2) 血管系関連

- 血管形成術
- 血栓溶解療法(図1)
- 血管内ステント留置術
- 下大静脈フィルタ留置術
- 大動脈ステントグラフト留置術
- 中心静脈ポート留置術
- 胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術および経皮経肝の静脈瘤塞栓術

- 救急止血術

- 動脈瘤(図2)、動静脈奇形など血管病変に対する塞栓術など

### 2. 非血管系IVR

- 各種ドレナージ術(膿瘍、閉塞性黄疸に対する胆汁ドレナージ、胆管ステント留置術、急性胆嚢炎に対する胆嚢ドレナージ、腎痿増設術など)
- 組織生検(CTガイド下肺生検など)(図3)

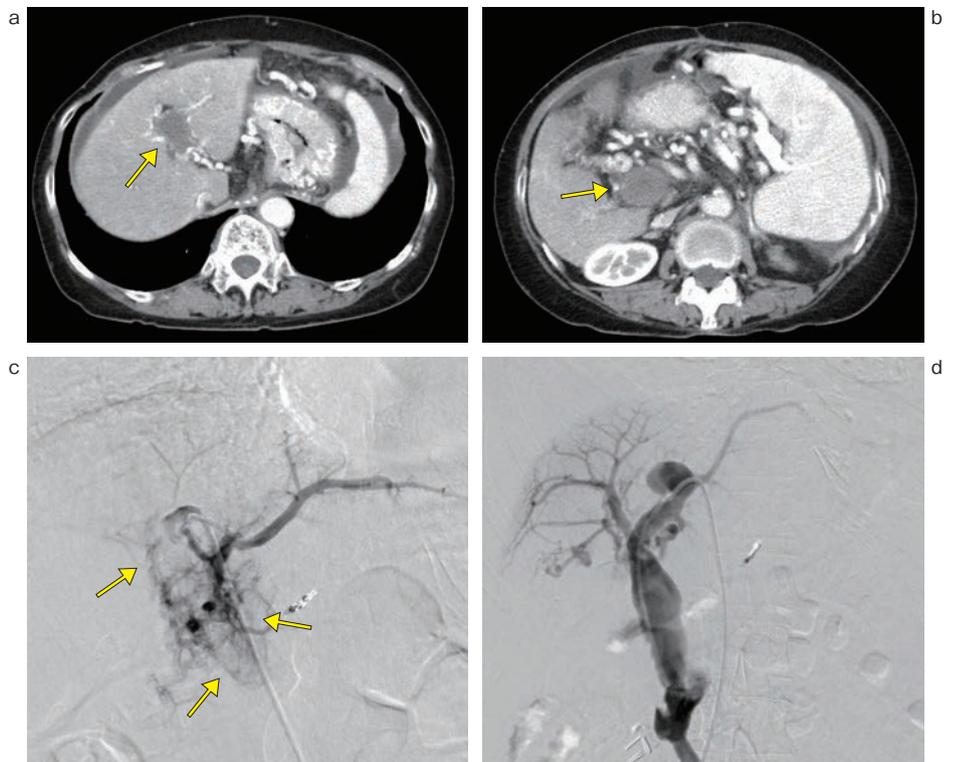


図1 重症門脈血栓症(グレードIV)に対する血栓溶解療法  
上腸間膜静脈～門脈本幹～肝内門脈に至る血栓症(a, b→)を認めた。経皮経肝的門脈穿刺を行ったところ、門脈内の大量血栓を認めた(c→)。血栓吸引、血栓溶解療法後では門脈血流が描出された(d)。